



アフターマーケットの高度化のためのコンソーシアムが作られた。記者会見に臨む小野田早稲田環境研究所社長、清水ユウベータ社長、有賀地球健康クラブ社長(左から)

早大・大学発ベンチャーが動く

売上げ縮小に悩む自動車アフターマーケットが、Wターミナルが目指すエコ・ユーザー育成で変わらざるを得ない。高度化コンソーシアムへの参加を呼びかけた。損害保険会社、リース会社、整備...

高度化コンソーシアムの意義
の関心は高く、25%削減と高度化コンソーシアムは、その一歩を踏み出したばかりだ。今後の広がりが注目される。エコ・ユーザーを育てれば売上げの期待は大きい。

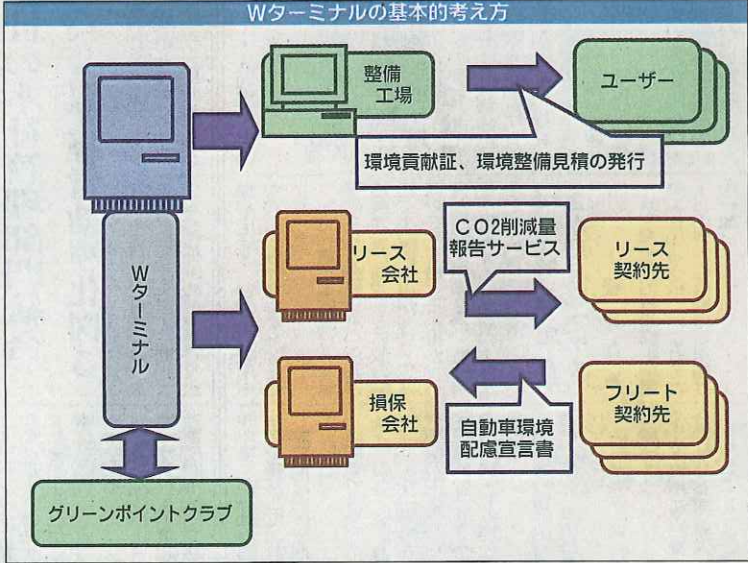
Wターミナル新事情

自動車リサイクル部品の二酸化炭素(CO2)削減効果を数値化したデータベース「グリーンポイントシステム」の活用範囲が拡大しようとしている。エコ・ユーザーの育成を目指すデータベースの一部に組み込まれ、整備事業者や損害保険業界、大手自動車ユーザーといった利用範囲の拡大が見込めるからだ。自動車から排出されるCO2削減は温暖化防止の重要課題。この解決に向けて自動車アフターマーケットが動いた。

CO2削減に関するデータベースは早稲田大学とユーザー提供を目指すのは、大学発ベンチャー(清水信夫社長、埼玉ンチャー企業)の早稲田環境研究所(社長)小野田弘幸(早稲田大学准教授)で、「Wターミナル」として自動車ユーザーの環境配慮行動を促すことを目指している。効果、①オイル交換、エンジン洗浄などの自動車メンテナンスがリサイクル部品の販売促進につながる。②エコグッズとして売ら

データベースを高度利用

CO2削減効果を数値化



関心高まる「Wターミナル」

板金事業者、整備関連システムに関心を寄せ、早稲田環境研究所はこれら二つの環境に配慮した事業所として、の取組みを行うことで、

整備業界は優良顧客の確保に効果

自動車リサイクル部品業界では、個別の購入者ごとにCO2削減データを提供できるようにした最新グリーンポイントシステムの利用者は85社にとどまっている。月ごとに千円前後の利用費用がかかること、さらに取引先の整備業者ごとに导出数据ができるCO2削減データの活用方法について、具体案を持っていないことが、参画事業者数が少ない要因になっているのとも見られる。ただ、コンソーシアムそのものの活動については関心は高く、「コンソーシアムで他業界の話聞いて活用を考えたい」という声も聞かれる。

企画・解説